

三重県気候変動適応センター



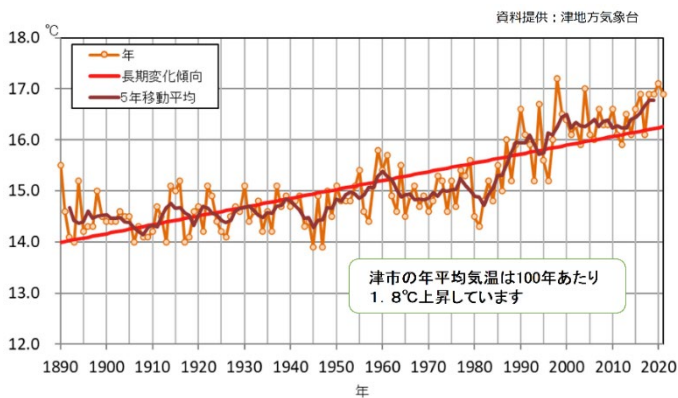
三重県気候変動適応センターは、三重県からの要請を受けて、2019年4月1日に一般財団法人三重県環境保全事業団が開設しました。

センターでは、気候変動の影響と適応に関する情報収集・整理及び分析、ウェブサイト等による情報発信、普及啓発等を行っています。

■緩和と適応

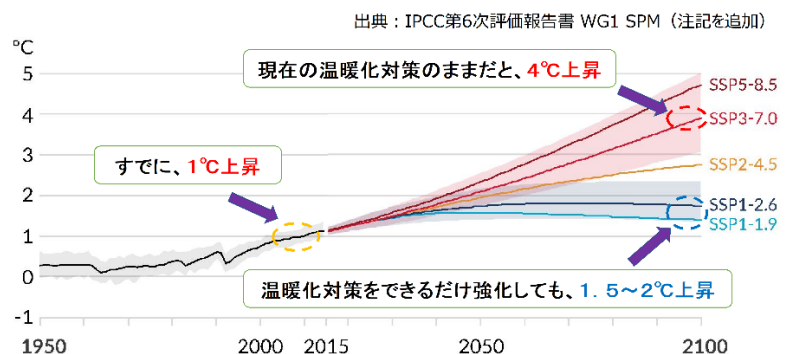
気候変動対策には「緩和」と「適応」の2つの対策があります。

CO₂などの温室効果ガスの排出を抑えるための取組が「緩和」、自然・社会・経済のあり方を調整することで気候変動の悪影響を軽減しようとする取組が「適応」です。



20世紀の100年間で、世界の平均気温は約1℃上がりました。農業、自然災害、健康など、様々な分野で、すでに、私たちの暮らしには気候変動の影響が及んでいます。

そして21世紀の100年間で、気温はさらに上がると予測されています。今と同じレベルの対策しか取らず、温室効果ガスを出し続けた場合には4℃、温室効果ガスを出さないための対策を、より強化した場合でも1.5~2℃、上昇することが見込まれています。



このため、気候変動が及ぼす影響と私たちの暮らしの間で折り合いをつけていく「適応」の取組が必要です。

■主な取組

情報発信

- ①ウェブサイトによる情報発信
 - ・気候変動の現状と将来予測
 - ・気候変動影響の現状と将来予測
 - ・気候変動影響への対策（適応策）
- ②講演、企画展示、イベント出展
 - ・市町、学校、企業等での出前講座
 - ・公共施設でのパネル等の展示
 - ・イベントへの出展

情報収集

① 三重県内の気候変動影響と適応に関するヒアリング

分野	対象
農林水産	米、いちご、黒ノリ、きのこ、 乳牛、酒造り 他
水環境	浄水場 他
自然生態系	ウミガメ、ネコギギ、ギフチョウ、 マツノマダラカミキリ 他
自然災害	自主防災組織、防災ボランティア、 流域治水
健康	暑さによる市民プールの利用中止 小学校の授業の中止、暑熱
産業・経済活動	レジャー施設の取組 他

② 気候変動に関する最新の科学的知見の収集

- ・気温や降水量等の気象観測データ
- ・気候に関する将来予測
- ・農作物等への影響予測

影響予測

国の研究機関が作成した海水温の将来予測に基づく三重県沿岸域の水産物への影響予測

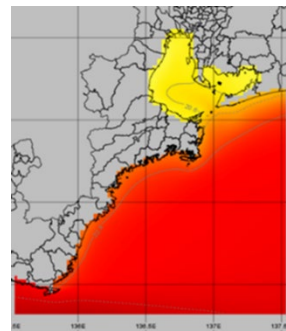
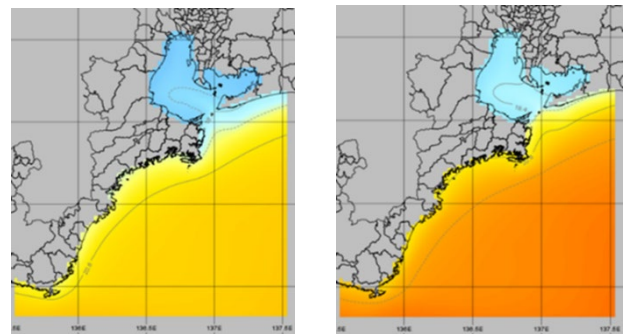
対象水産物：黒ノリ

真珠（アコヤガイ）

マダイ

対象期間：21世紀中頃（2041-2055年）

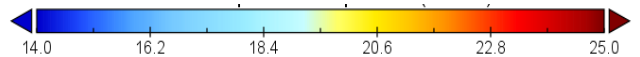
21世紀末（2086-2100年）



新たな温暖化対策を取らない場合の海水温の変化予測

(左上) 1991-2005年
(右上) 21世紀中頃
(左下) 21世紀末

JAMSTEC「日本近海域 2kmデータセット：FORP-JPN02」をもとに作図
(水深 0.5m RCP8.5 シナリオ)



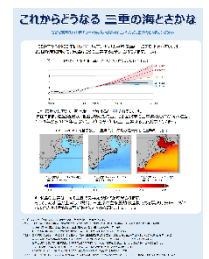
作成した冊子、リーフレット



2019年作成



2020年作成



2022年作成

三重県気候変動適応センター

所在地：〒510-0304 三重県津市河芸町上野 3258 番地
一般財団法人 三重県環境保全事業団 2F

TEL：059 (245) 7529 FAX：059 (245) 7518

E-mail：m-tekiou@mec.or.jp

URL：<http://www.lccac-mie.org/>

